



Ishtar Gilgamesh Kotomine Kirei

了解した

引き続き
任務にあたれ



随分
疲れが出ている
ようだな



綺礼



私の所為
とでも
言いたいのか



……
誰の所為だと
思ってる



……
また時間は
かかるぞ

あるさ
無駄は嫌いだ
終わった時
全てわかる

……
本当に意味は
あるのか



貴様……



おやおや
それは大変だな

可能な時間は
限られている

生憎
私は魔力はそんなに
持ち合わせていない





それとも
経験があった
のか

呆れている
だけだ

……
つまらんな



見たいのだ


いい加減
離……

我は



極上のものだ

最も
縁遠い者
が見せる
その面貌



故に
歪ませたく
なる




……っ
貴様の悪趣味に



付き合…

これより
先に



足を
踏み入れたら
どうなるかな

1回で
胸をたたく

その
高を括っていた

だが
奴は何を
気に入ったのか

その後も
勝手に現れては

勝手に寛ぎ

それが
始まりとし

また
流されるがまま
だった

昼夜問わず

勝手に体を重ねた

主導権は
何時も奴だったか

意外だったのは
奴自ら中へ
許じたこと

勝手は
許さぬかのまじつ

私の反応を
楽しむかのまじつ
行為に及び

私ができる
抵抗は声を押し
昂ぶりを抑える
ことだった

そして
何も見逃さぬかのまじつ
私の顔から手を
離さなかった

それでも
抗えはしなかった



何をそんなに
気に入ったのか

聞いたことが
あった



「逢する時の面様が
我好みだな」



下劣な趣味だ

その趣味に
何時までも
付き合いたくも
なかつたが

サーヴァント
相手に抵抗は
意味もない

ただの
独り善がりの行為に
感ずる自業自得
でもあった



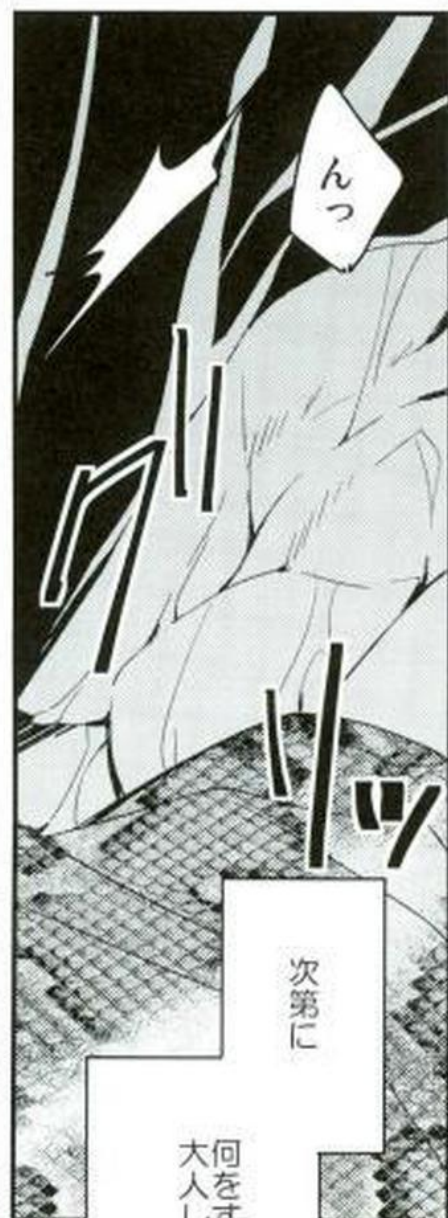


んっ

貴様っ

我を組み…





機嫌を
損ねぬ様
のために



次第に
何をすれば
大人しくなり





これもこれで
愉快だ



何をすれば
喜ぶか
理解してきた

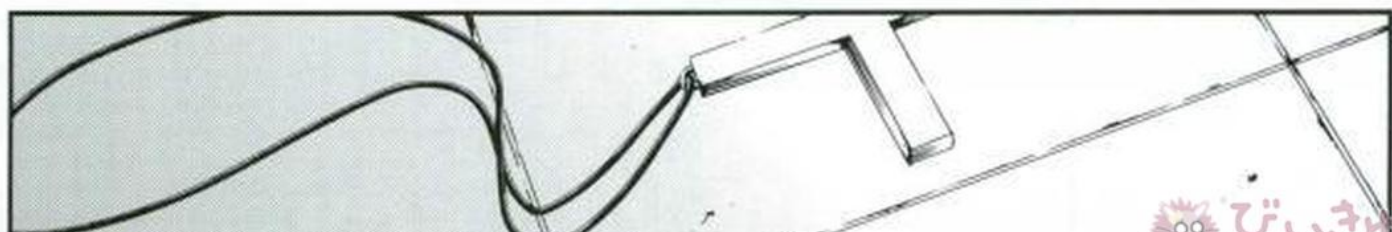
珍しいものだな
積極的にくるとは



偶には
許そう

この体勢は
不服だが

思えば



己が
為して
た
ことは

動物を喜ばせ
手懐けるかの
よう

うっ

ん

下劣で

あ
あっ

奴の趣味と
似たようなもの
だった





っ……
何時の内に
学んだのだ

聖職者とは
聞いて呆れる

……



……貴様は

このような
情事でも
痛みはあるのか



アッ
馬鹿げた
ことを！

憂慮とはな

この程度
快樂でしか
あるまいか

……そうか



懲りもせず
愚考して
おるな

フリ



どうした
綺礼



平易な奴よ

その醜悪な笑みを
消すには

どのようになれば
いいのかわか
らなくていた



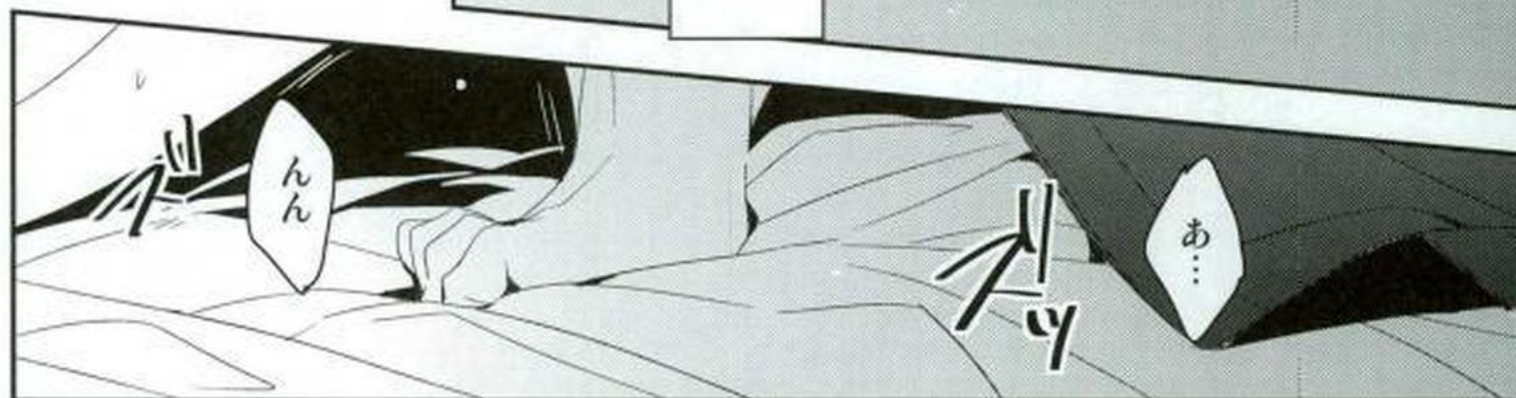


煩わしさを
回避するためが

既に
その時には
興じていたのだと

気づいたのは
まだ

後のこと





.....その顔



気に食わん



.....なに懐かしんでただけさ

あの頃の
余裕は何処やら







F a l l i n g D o w n

DATE ACQUIRED: _____